

令和 2 年度
予防・健康づくりに関する大規模実証事業一式
(運動、栄養、女性の健康、がん検診)

(ウ)
女性特有の健康課題に関するスクリーニング及び
介入方法検証のための実証事業
「月経困難症」研究班

最終報告書
(1 か年目)

令和 3 年 3 月 11 日
東京大学

目次

1. 事業概要 (Executive Summary).....	3
2. 事業の背景・目的	4
3. 本事業(3 か年)の概要	4
3.1 検証する介入手法	4
3.2 KPI	5
3.3 実証フィールド.....	5
3.4 3 か年のスケジュール.....	5
3.5 実施体制	5
4. 本年度の実施内容.....	6
4.1 実施内容	6
4.2 実施スケジュール	7
4.3 実施体制	7
5. 本年度の実施結果.....	7
6. 来年度以降の方向性	7

1. 事業概要 (Executive Summary)

事業の目的、本年度の実施内容・結果、来年度の進め方等について、概要を **1,000 字以内**でご記載ください。

月経困難症は女性に高頻度に見られ、特に就労女性においては QOL を低下させるだけでなく生産性の低下にも大きく寄与することが社会的な問題である。一方で女性特有の健康課題であることや、婦人科・病院にかかりたくない意識が強いことから、受診率は極めて低く、疾病への認識を変えていく必要がある。本疾患は適切な治療・管理を行うことで症状をコントロールすることが可能であるため、症状の強さを客観的に判断して、必要に応じて医療機関の受診を勧奨するシステムが構築されると QOL および生産性が高まることが期待される。本研究では就労女性の定期健康診断をスクリーニングの場として位置付け、スマホのアプリを利用したアンケート調査を行うことで本疾患の重症度を推定し、医療機関への受診勧告を行い、受診勧奨に基づき医療機関を実際に受診したかどうか、受診をした場合、症状がどの程度改善されたかなどを調査し、本研究による医療経済効果についても検証することを目的とした。

本年度は研究の準備期間として本研究に必要な計画の作成、実際にアンケート調査を行う協力施設の選定、実施するアンケートを組み込むアプリ運用会社との各種調整、契約、また研究実施施設における倫理申請を行なった。

来年度は春以降の健康診断に合わせて実際のアンケート事業を開始させる。背景因子、modified Menstrual Distress Questionnaire (mMDQ)、月経痛スコア、SF36v2、WPAI-GH について、スマートフォンアプリを用いてユーザーの紐付けをおこない、データ採取および紙媒体での問診をおこなう。月経随伴症状に関しては結果を解析することで数値の分布を振り返ることが可能になり、月経随伴症実態調査の報告が可能になる。同時にアンケート対象者の月経アプリに、PMS/PMDD 症状と月経困難症の重症度を表示させることで、エンドユーザーに受診を勧めるに足る実証的な数値が出るような機能を付加させておくことで、スマートフォンによる受診勧奨がどれくらい奏功するのかを推計する。初回アンケート回答後 6 ヶ月時点において、再度アンケートを採取するが、その際には受診を既に行っていた場合、医療費がどれくらい費やされたのかも尋ねる。本研究に関連した基礎的研究も随時おこなう。受診勧奨に至れていない場合には、結果の通知の方法を再度検討し直す可能性を考慮する。また 2 年次において受診をした方々に対し追加アンケートをおこなうことで、実際の医療費データの収集を目指す。本研究に関連した基礎的研究も随時おこなう。

2. 事業の背景・目的

月経に伴い、精神的、身体的症状を特徴とする月経前緊張症（PMS）とその重症型である月経前気分不快障害（PMDD）は高頻度にみられ、月経困難症（生理痛）は器質性疾患に伴い出るものと、そうでない機能性に出るものがある。これら疾患はQOLを低下させるだけでなく生産性の低下にも大きく寄与することが社会的な問題である。更に両者は心臓循環器系疾患等を将来発症する高リスク群でもある（Li MH., PLoS One 2019, Bertone-Johnson ER., AM J Epidemiol 2015, Stamatelopoulos KS, Atherosclerosis 2012.）。その頻度はいずれも約70-80%と高く（Takeda T., Arch Womens Ment Health 2010）、適切な対応指導が求められている。いずれも月経直前および直後に症状が出現するものの、それ以外の時期には症状が乏しいことや病院にかかりたくない意識が強いことから、受診率は極めて低く、疾病への認識を変えていく必要がある。女性特有の健康課題は個人のQOL、健康度を低下させ、その経済的損失は著しい。しかし女性自身及び社会の認知度が低く、放置に近い。それ故集団を対象とする検診（集団・施設）がそのスクリーニング可能な唯一の場と位置付けられるが、これら健康課題は対象でないため、現状ではスクリーニングすら不可能である。やせ願望によるやせや、他の要因によるものは体質的なものとの意識があり、月経周辺症状は頻度が高く女性特有の症状であり、月経周辺期以外は体調が良いとして我慢する。このような意識により受診率は低く、多くが放置されており、この健康課題に自覚のない人々をスクリーニングし、介入指導を密に行い、長期に渡る効果検証を行うシステムが今早急に求められている。症状の強さを客観的に判断して、必要に応じて医療機関の受診を勧奨するシステムが構築されるとQOLおよび生産性が高まることが期待される。月経前症候群は詳細な問診表（modified menstrual distress questionnaire : mMDQ）を用いることで診断が可能になる。月経困難症は月経困難症スコア（Harada T, et al. Fertil Steril 2008）を用いる。このように健診の場で活用できるスクリーニングシステムを構築し、受診行動へ進化させるためには、自らの症状の程度を知らしめることが必要であり、ただ数値に関して結果を通知するのではなく、既存の携帯アプリをインストールしたスマートフォンアプリに機能を付加することで、適宜リマインドを送るなどして自らの病状に対する気付きをおこない結果として受診勧奨に至らせしめることを目標とする。初回アンケート回答後6ヶ月時点において、再度アンケートを施行し、受診勧奨に基づき医療機関を実際に受診したかどうか、受診をした場合、症状がどの程度改善されたかなどを調査し、本研究による医療経済効果についても検証する。

3. 本事業(3 年)の概要

3.1 検証する介入手法

本研究では、分担施設やその協力施設において実施される職場の健康診断を受ける働く20-40代の女性を対象にリクルートを行う。健診の場という限られた時間内で簡易にPMS/PMDDや月経困難症のスクリーニングをすることを目標とし、新たな月経随伴症状スクリーニング法を開発するための基盤を構築する。抽出された重症と想定される群に対しては、受診勧奨をするための具体的方策を考える。よって、PMS症状、月経困難症に対する症状を数値によって重み付けし、程度に応じて受診勧奨をして、実際に受診に至った率をプライマリーエンドポイントと設定する。

アンケートをおこなう女性に対して、本研究の内容についての紙面による説明を受け、調査に同意いただいたのちに、月経管理アプリ、ルナルナ®を必要に応じてインストール・利用登録してもらい、説明文書の確認後に同意ボタン押すことで電子的に同意を取得する。本研究用に新規構築されたアンケート調査に回答する。背景因子、mMDQ、月経痛スコア、SF36v2、WPAI-GHについて、スマートフォンを用いてユーザーの紐付けをおこない、データ採取をおこなう。月経随伴症状に関しては結果を解析することで数値の分布を振り返ることが可能になり、月経随伴症実態調査の報告が可能になる。同時にアンケート対象者の月経アプリに、PMS/PMDD症状と月経困難症の重症度を表示させることで、エンドユーザーに受診を勧めるに足る実証的な数値が出るような機能を付加させておくことで、スマートフォンによる受診勧奨がどれくらい奏功するのかを推計する。初回アンケート回答後6ヶ月時点において、再度アンケートを採取するが、その際には受診を既にしていた場合、医療費がどれくらい費やされたのかも尋ねる。また未受診者の意識把握について検討するため、受診勧告がなされたが、受診をしなかった場合にはその理由を探索する。本研究に関連した基礎的研究も随時おこなう。

全施設分のアンケート結果は匿名化された電子情報の形で（株）エムティーアイより提供される。

3.2 KPI

- （１） アンケート結果の解析による月経随伴症状の症状変化（mMDQ、月経困難症スコア、SF36v2、WPAI-GH）
- （２） 受診勧告による実際の医療機関への受診歴の有無、またその効果
- （３） 月経随伴症状の経済的損失の推計

3.3 実証フィールド

下記実施体制に記載された協力施設にて健康診断を受ける就労女性、年齢の上限は月経に伴う症状を対象としており、20歳以上、平均的な閉経時期である50歳未満とする。サンプル数は許容誤差5%、信頼度95%、回収率50%と仮定して、母集団数を就労女性10000人相当とした場合、サンプル数は800人と計算される。

3.4 3か年のスケジュール

初年度：

（A）研究の開始準備：本研究の準備期間としての位置付けであり、各種質問表を整備し、本研究の倫理申請を研究主体の東京大学において申請する。

（B）スクリーニングをおこなうための全国的取り組み：当研究班の知己を通じて、デスクワーカーだけでなく多職種におけるアンケートを志向するため都心だけでなく、上記のように地方都市においてもスクリーニングをおこなう調整をつける。連携協力施設との討論を開催し、それに基づく本事業の基盤を整備していく。

（C）受診勧奨するための基盤構築

受診勧奨については、健診の結果通知の出し方に工夫が必要と考えており、自らの重症度を他人と比較出来るようにするため、月経管理携帯アプリを運営する会社（総ダウンロード数1000万を超えるルナルナ®を運営する株式会社エムティーアイ）と連携して、健康診断をおこなう女性に対しアプリをインストールしてもらい月経随伴症状を含めたアンケートをおこない、月経随伴症状についてはその重症度を通知するように設定する。

（*1）アンケート：PMS/PMDD 問診のための mMDQ（54 点以上を以上とみなすが 5 段階にて軽症～重症に大別する）、月経困難症スコア（0～6 点：薬剤介入の適応と適応になるのが 3 点くらいという既報があるため、5 段階評価で、0：正常、1：軽症、2：中等症、3～4：重症、5～6：最重症に大別する）を主要評価項目とする。SF36v2、WPAI-GH 等の調査をおこなう。本研究に関連した基礎的研究も随時おこなう。

2 年目以降

春以降の健康診断に合わせて事業を開始させる。背景因子、mMDQ、月経痛スコア、SF36v2、WPAI-GH について、スマートフォンを用いてユーザーの紐付けをおこない、データ採取および紙媒体での問診をおこなう。月経随伴症状に関しては結果を解析することで数値の分布を振り返ることが可能になり、月経随伴症実態調査の報告が可能になる。同時にアンケート対象者の月経アプリに、PMS/PMDD 症状と月経困難症の重症度を表示させることで、エンドユーザーに受診を勧めるに足る実証的な数値が出るような機能を付加させておくことで、スマートフォンによる受診勧奨がどれくらい奏功するのかを推計する。初回アンケート回答後 6 ヶ月時点において、再度アンケートを採取するが、その際には受診を既にしていた場合、医療費がどれくらい費やされたのかも尋ねる。本研究に関連した基礎的研究も随時おこなう。受診勧奨に至れていない場合には、結果の通知の方法を再度検討し直す可能性を考慮する。また 2 年次において受診をした方々に対し追加アンケートをおこなうことで、実際の医療費データの収集を目指す。本研究に関連した基礎的研究も随時おこなう。

3.5 実施体制

研究主任施設

大須賀 穰 東京大学 産婦人科学講座 教授 施設責任者

平池 修 東京大学 産婦人科学講座 准教授 研究責任医師
森 蘭代 東京大学 産婦人科学講座 講師 研究分担
甲賀 かをり 東京大学 産婦人科学講座 准教授 研究分担
廣田 泰 東京大学 産婦人科学講座 准教授 研究分担
原田 美由紀 東京大学 産婦人科学講座 准教授 研究分担
鶴賀 哲史 東京大学 産婦人科学講座 講師 研究分担
入山 高行 東京大学 産婦人科学講座 講師 研究分担
宮本 雄一郎 東京大学 産婦人科学講座 助教 研究分担
石坂 彩 東京大学 産婦人科学講座 専門研修医 研究分担
古川 真帆 東京大学 産婦人科学講座 専門研修医 研究分担
平野 茉来 東京大学 産婦人科学講座 届出研究医 研究分担
三武 さわ 東京大学 産婦人科学講座 学部生 研究分担

協力施設

前田 恵理 秋田大学 衛生学・公衆衛生学講座 准教授 研究責任医師、リクルート・研究説明
太田 郁子 倉敷平成病院 婦人科 部長 研究責任医師、リクルート・研究説明
北島 道夫 長崎大学 産婦人科 准教授 研究責任医師、リクルート・研究説明
北島 百合子 長崎大学 産婦人科 助教 リクルート・研究説明
浅沼 栄里 聖隷健康診断センター 産婦人科 研究責任医師、リクルート・研究説明
賀来 宗明 フェニックスメディカルクリニック 院長 研究責任医師、リクルート・研究説明
田中 佐智子 京都大学 医学研究科デジタルヘルス学講座 特定教授 研究責任医師、データ解析

4. 本年度の実施内容

4.1 実施内容

(A) スクリーニングの実施準備

本アンケート調査を行うための倫理申請を研究主体の東京大学において申請した。次回 3 月 15 日に開催予定の倫理委員会にて確認、承認が行われる予定である。

(B) スクリーニングをおこなうための全国的取り組み

当研究班の知己を通じて、デスクワーカーだけでなく多職種におけるアンケートを志向するため都心だけでなく、上記のように地方都市においてもスクリーニングを行うこととし、上記実施体制内にある協力施設との調整を行なった。またそれに基づき本事業の基盤を整備する一環として、東京大学の倫理委員会にて倫理申請は一括申請として行なった。

(C) 受診勧奨するための基盤構築

受診勧奨については、健診の結果通知の出し方に工夫が必要と考えており、自らの重症度を他人と比較出来るようにするため、月経管理携帯アプリを運営する会社（総ダウンロード数 1000 万を超えるルナルナ®を運営する株式会社エムティーアイ）と連携して、健康診断をおこなう女性に対しアプリをインストールしてもらい月経随伴症状を含めたアンケートをおこない、月経随伴症状についてはその重症度を通知するように設定するようにシステムの開発を依頼し、契約を締結した。

(*1)アンケート：PMS/PMDD 問診のための mMDQ（20 点以上を異常とみなすが 5 段階にて軽症～重症に大別する）、月経困難症スコア（0～6 点：薬剤介入の適応になるのが 3 点前後であるため 5 段階評価で軽症～重症に大別する）を主要評価項目とする。

また SF36v2 もアンケートに仕様するため、本アンケートを開発・管理を行なっている iHope International とアンケート利用契約を締結した。

4.2 実施スケジュール

年度内に本研究に対する研究計画書の策定、連携協力施設の選定、またアンケートの実施におけるアプリ運営会社との実際のアンケートシステムを構築するために必要な計画の作成、契約を行う。

年度内にスクリーニング検査を行うための連携協力施設を確定し、それぞれの施設で本研究に対する倫理審査を完了とする予定。

4.3 実施体制

3 か年での実施体制と同様

5. 本年度の実施結果

東京大学倫理委員会の個別審査は 2 月 10 日に完了し、特に問題がなければ 3 月 15 日の本審査にて審査・承認される予定である。

また本審査において多くの連携協力施設では倫理審査の一括申請を行っており、東大で承認されることで、協力施設における倫理審査に関しても完了となる。

株式会社エムティーアイと 2021 年 2 月 8 日付けで契約を締結し、アプリにおけるアンケート調査の実施に向けての準備を整えている。次年度に向けて実装を目指す。

アンケートの一部である SF36v2 を管理する iHope International と契約を締結し、SF36v2 の利用許可を取得。

6. 来年度以降の方向性

春以降の健康診断に合わせて事業を開始させる。背景因子、mMDQ、月経痛スコア、SF36v2、WPAI-GH について、スマートフォンを用いてユーザーの紐付けをおこない、データ採取および紙媒体での問診をおこなう。月経随伴症状に関しては結果を解析することで数値の分布を振り返ることが可能になり、月経随伴症実態調査の報告が可能になる。同時にアンケート対象者の月経アプリに、PMS/PMDD 症状と月経困難症の重症度を表示させることで、エンドユーザーに受診を勧めるに足る実証的な数値が出るような機能を付加させておくことで、スマートフォンによる受診勧奨がどれくらい奏功するのかを推計する。初回アンケート回答後 6 ヶ月時点において、再度アンケートを採取するが、その際には受診を既にしていた場合、医療費がどれくらい費やされたのかも尋ねる。今回のようにスマホアプリと連携することで、再度のアンケートを行うことが可能であり、未受診者への介入の有効性についても検証することが可能となる。また本研究に関連した基礎的研究も随時おこなう。

厚生労働省「予防・健康づくりに関する大規模実証事業等一式
（運動、栄養、女性の健康、がん検診）」
女性特有の健康課題に関するスクリーニングお呼び介入方法検証のための実証事業

令和3年度

評価委員会

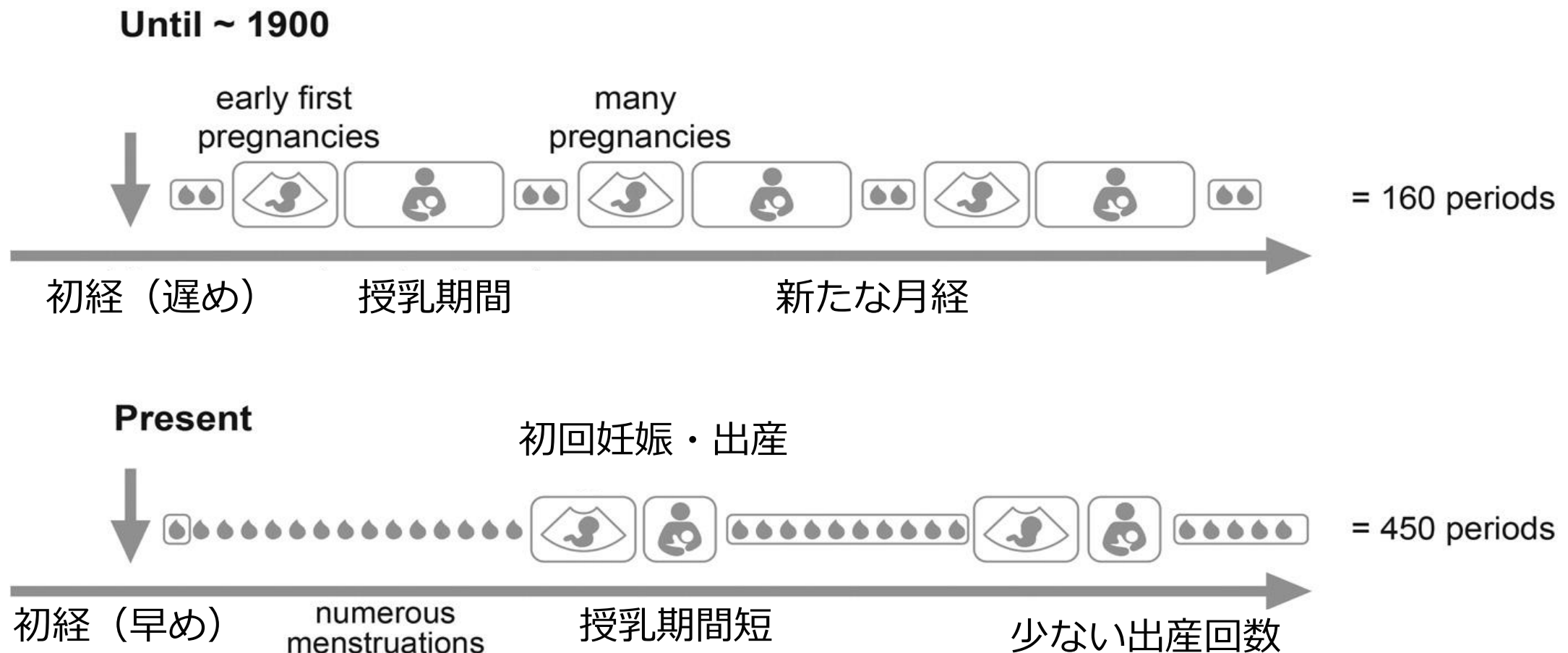
「月経困難症」研究班

東京大学医学部附属病院

女性外科教授 大須賀 穰、女性診療科・産科准教授 平池 修、女性診療科・産科講師 森 蘭代

女性の生涯における月経回数

現代女性は生涯に経験する月経回数が増加している



Published in: Alessandra Graziottin; *The European Journal of Contraception & Reproductive Health Care* **2016**, 21, 93-105.

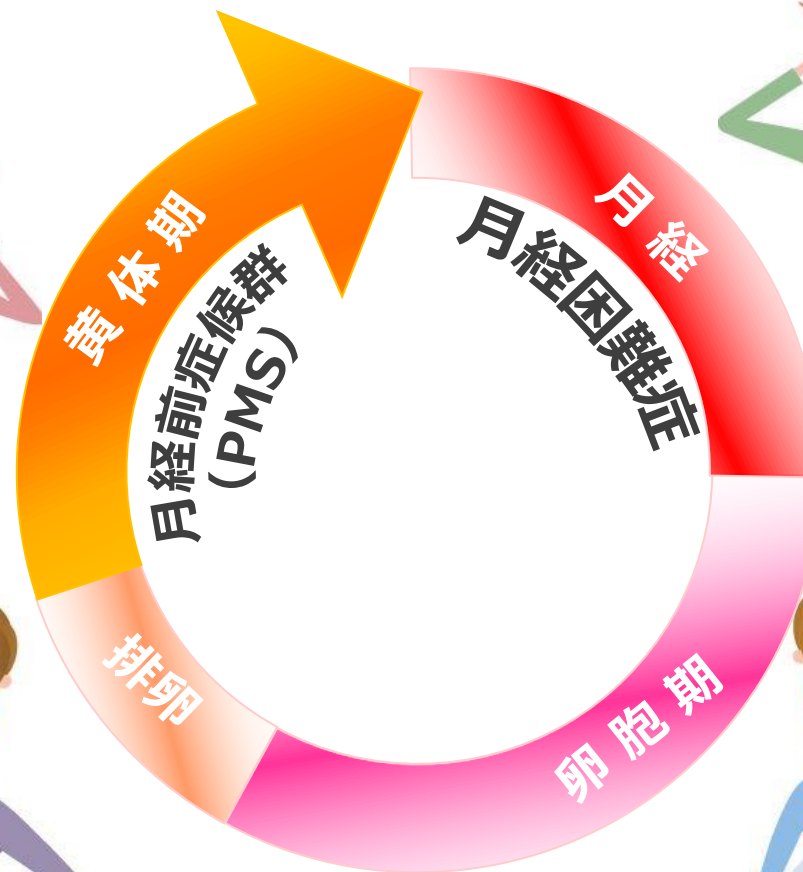
代表的な月経随伴症状

精神症状

イライラ
眠気
怒りっぽい
はき気
憂うつ
乳房痛
おなかのはり
腰痛
下腹部痛

身体症状

少し腹痛の
あることも...



頭痛

はき気

身体症状

腰痛

腹痛

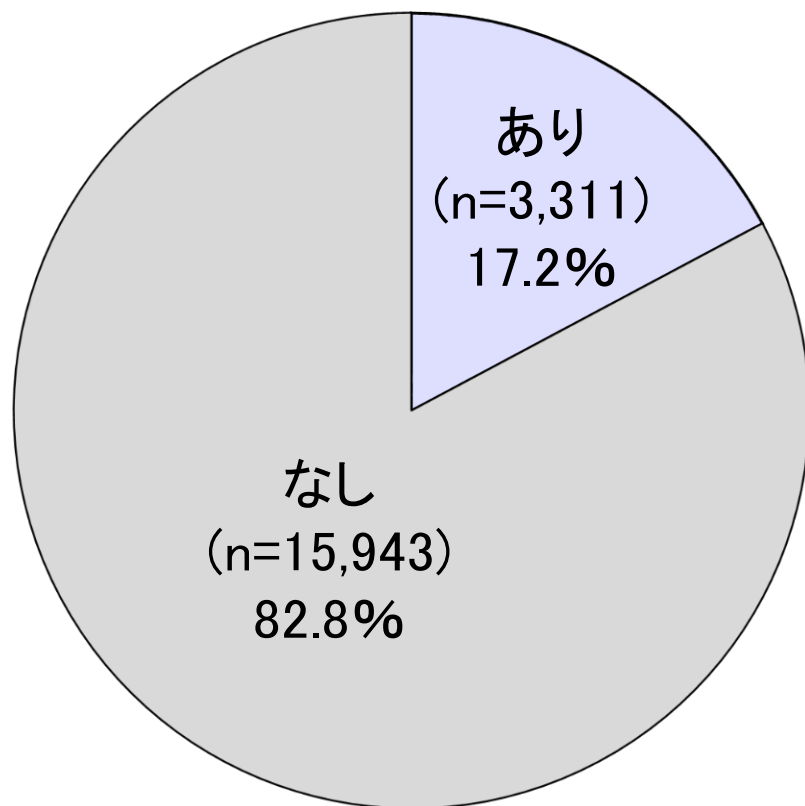
気分が
安定する時期

「My Body & Cycle」より

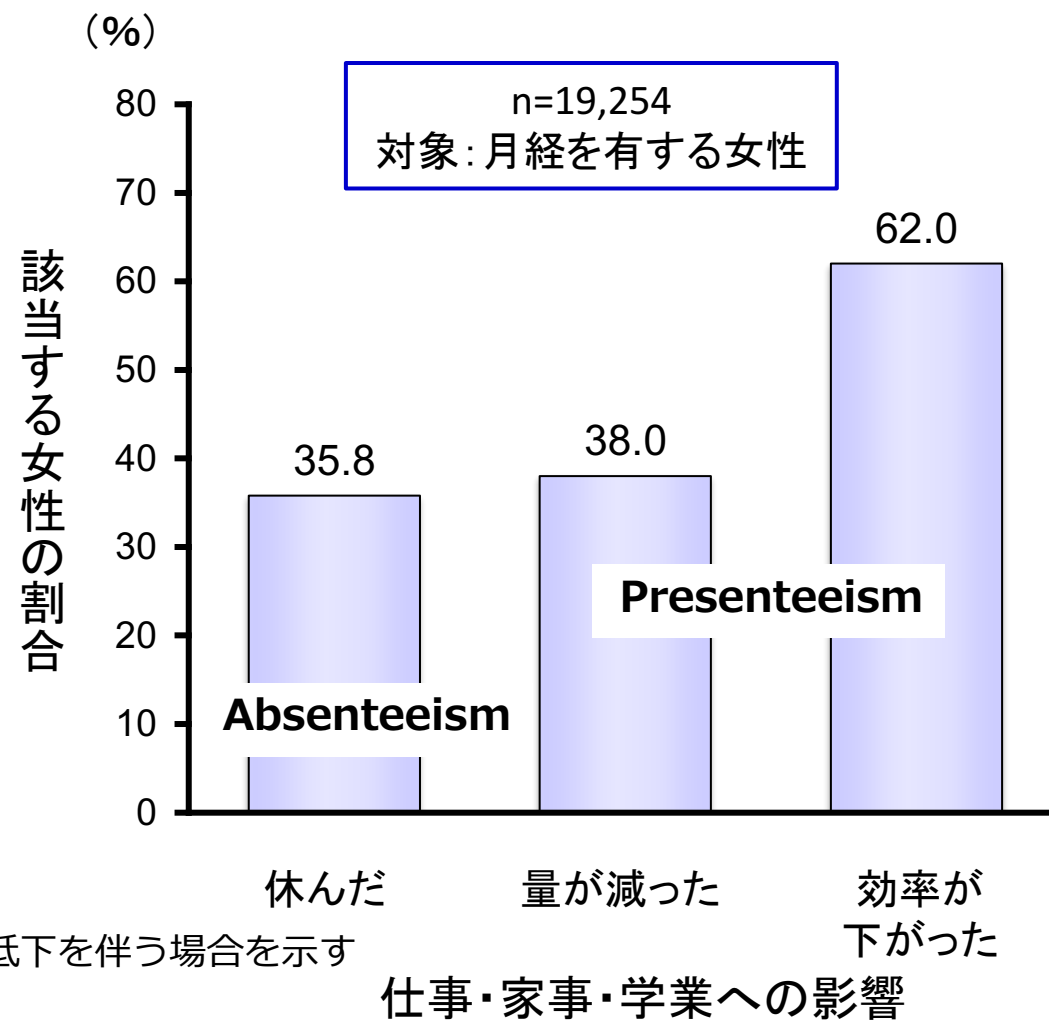
経済損失にもつながる重要な疾患と考える

月経随伴症状の心身・経済的負担

月経随伴症状による労働へ影響[#]の有無



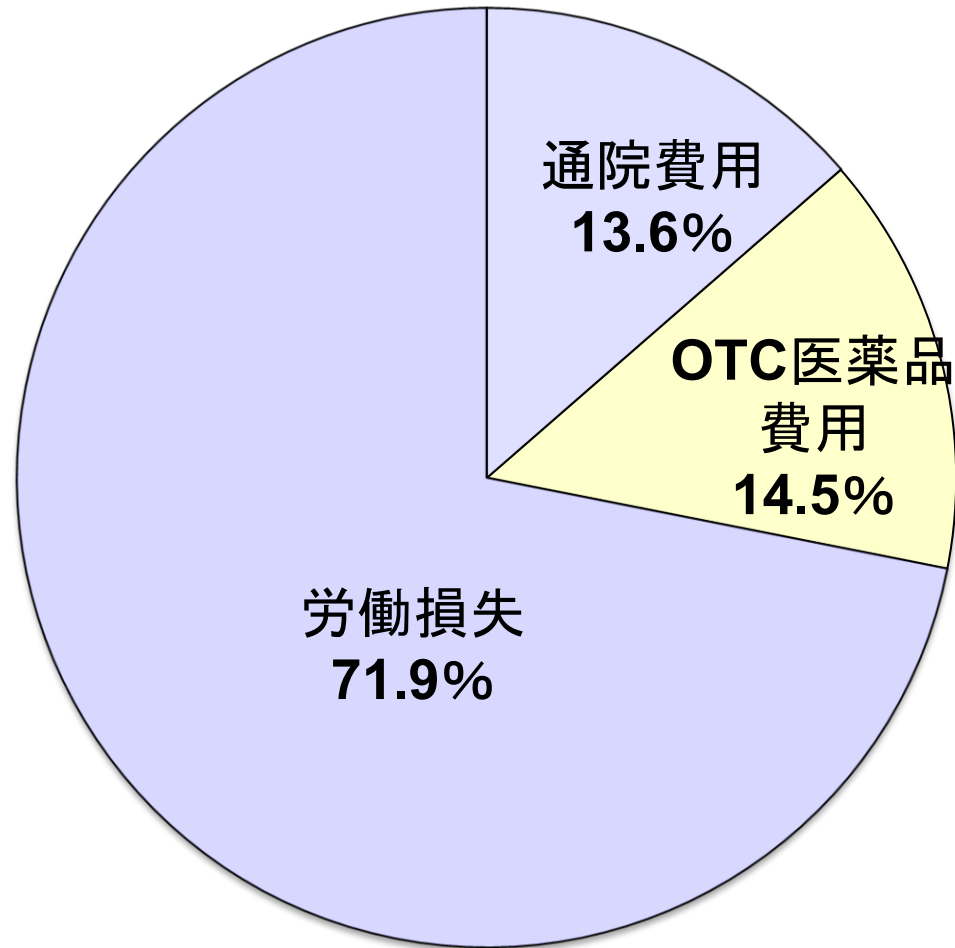
[#] 仕事・家事・学業を休んだ、量を減らした、もしくは効率低下を伴う場合を示す



Tanaka E, Momoeda M, Osuga Y et al. J Med Econ 2013; 16(11): 1255–1266.

月経随伴症状の心身・経済的負担

月経随伴症状による1年間の社会経済的負担

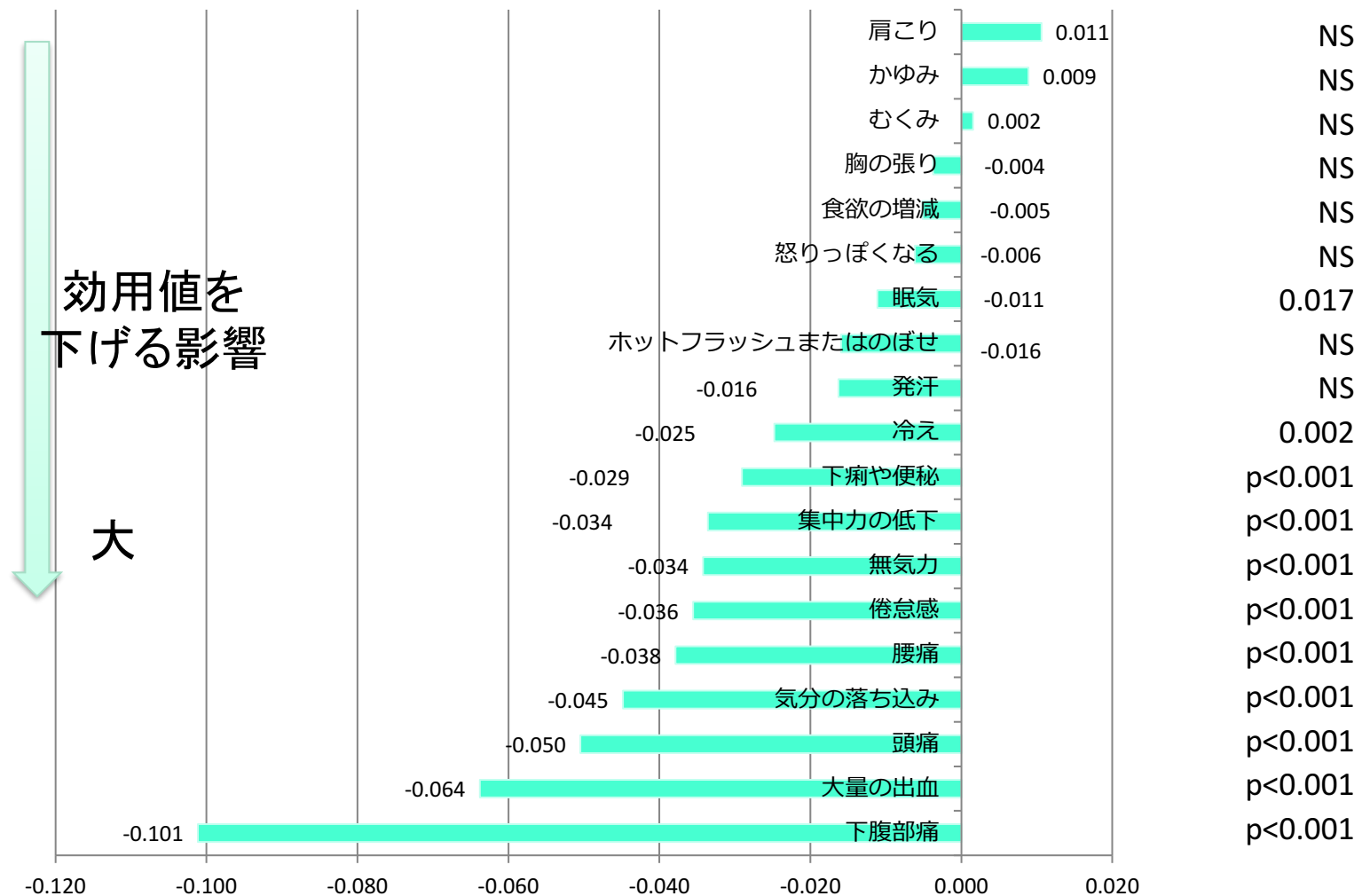


内訳	推計額
通院費用	930 億円
OTC 医薬品費用	987 億円
労働損失	4,911 億円
総計	6,828 億円

OTC 医薬品: 一般用医薬品

Tanaka E, Momoeda M, Osuga Y et al. J Med Econ 2013; 16(11): 1255–1266.

月経随伴症状の効用値への影響



- 効用値を下げる月経随伴症状は9つ
- 下腹部痛＞出血＞頭痛＞気分の落ち込みの順で、影響が大きい

Shimamoto K, Goto R, Wada-Hiraike O, Osuga Y et al. submitted

「女性の健康推進室 ヘルスケアラボ」は、すべての女性の健康を支援するために厚生労働省と研究班が作成した健康情報提供サイトです。



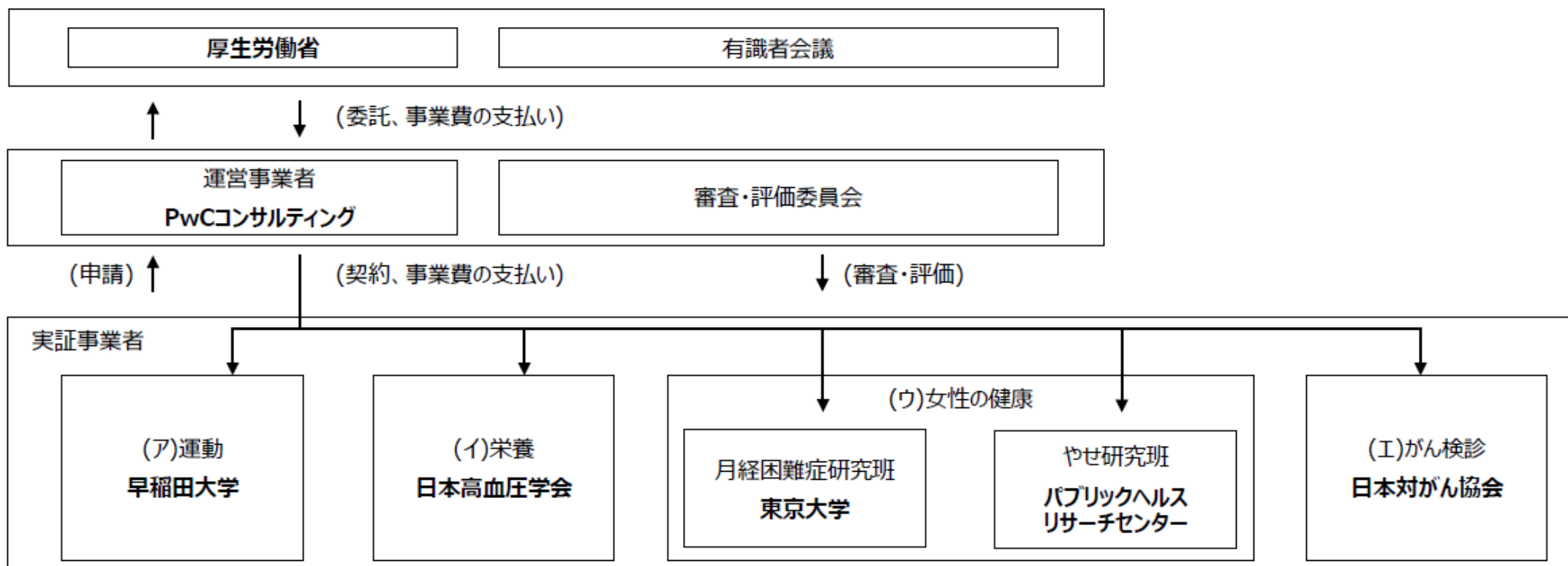
サイト概要

サイト名称	女性の健康推進室 ヘルスケアラボ
サイトURL	http://w-health.jp/ 
Facebookページ	https://www.facebook.com/w.health.jp/
サイト開設	2016年3月31日β版開設
メニュー説明	◇女性の健康ガイド ライフステージ別の健康に関する悩みや疑問を詳しく解説。 ◇病気を調べる キーワードや症状で簡単に気になる病気を調べることができる検索機能。 ◇セルフチェック 簡単な質問に答えるだけですぐにセルフチェックが可能。 ◇女子力アップレシピ 気になる症状などに効く簡単レシピをご紹介します。 ◇病気Q&A 女性の病気と悩みをQ&A形式で詳しく解説。 ◇BMI測定 身長と体重を入力し、簡単にBMIを測定できる機能。

女性の健康の包括的支援のための情報収集・情報発信と医療提供体制等に関する研究（27210101）にて運用開始

令和2年度 予防・健康づくりに関する大規模実証事業 事業スキーム

令和2年度 予防・健康づくりに関する大規模実証事業において、各実証事業を実施する事業者や研究機関等(以下「実証事業者」)は公募のうえ決定し、PwCコンサルティング合同会社(以下「運営事業者」)との契約に基づき、(ア)～(エ)の採択されたテーマに関する実証事業を実施することとしております。事業費は運営事業者より各実証事業者へ支払います。



- 各実証事業を実施する事業者や研究機関等(以下「実証事業者」)は公募のうえ決定し、PwCコンサルティング合同会社(以下「運営事業者」)との契約に基づき、(ア)～(エ)の採択されたテーマに関する実証事業を実施、事業費は運営事業者より各実証事業者へ支払う。
- 運営事業者は厚生労働省の委託を受け、事業全体の運営管理を行う。具体的には、実証事業者の公募、採択及び契約締結のほか、実証事業に対する指導、助言、進捗状況の管理及び各実証事業の成果の取りまとめ等を行う。
- 実証事業の公募に関する審査に際しては、「実証事業審査・評価委員会(仮称)」(以下「審査・評価委員会」)を設置し、応募された実証事業の審査・採択の決定を行う。採択された実証事業者は厚生労働省、運営事業者と調整のうえ事業を進めるとともに、厚生労働省に設置する「予防・健康づくり大規模実証に関する有識者会議(プラットフォーム)」(以下「有識者会議」)、審査・評価委員会等における議論等も踏まえながら進めるものとします。

研究の流れ

女性特有の健康課題に関するスクリーニング及び介入方法検証のための実証研究



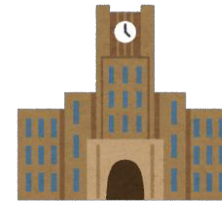
予防・健康づくりに関する大規模実証事業（参考資料1）
（運動、栄養、**女性の健康**（参考資料2）、がん検診）

委託

運営事業者：PwCコンサルティング株式会社



共同研究施設：対象クリニック



東京大学：月経随伴症候群に対する健診での
アプローチ法の検討

収集データの解析

健康診断を受診する就労女性に
月経に関するアンケート調査依頼



同意



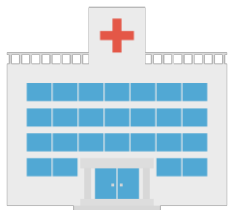
業務委託

株式会社 MTI
アプリ（ルナルナ®）上で
アンケート回答

6ヶ月後
アプリを通じて
再度アンケート調査

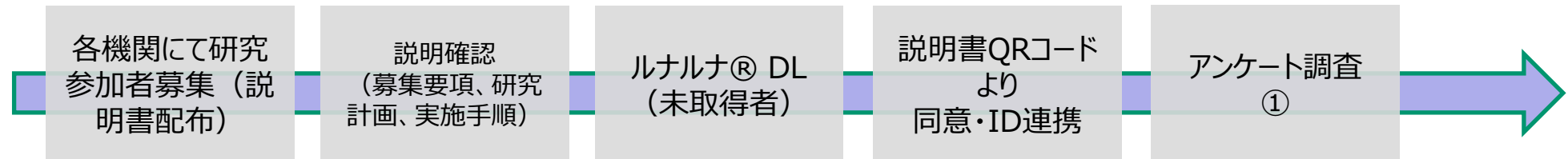
勧奨を元に自身の
判断で医療機関を受診

本人へ月経困難症など
の重症度について通知
医療機関への受診勧奨



ルナルナサービス内での募集フロー（概要）

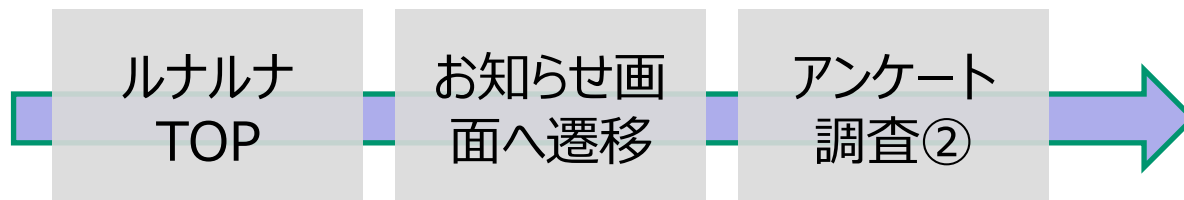
1) サービス募集・同意・アンケート調査①



※各地域での健康診断に受診する人を募集する

- 1) 秋田（秋田大学 前田恵理准教授）
 - 2) 浜松（聖隷浜松健康センター 浅沼栄里医師）
 - 3) 倉敷（倉敷平成病院 太田郁子部長）
 - 4) 長崎（長崎大学 北島道夫准教授、北島百合子助教）
 - 5) 東京（EPSホールディングス 竹中淳子氏）
- 2021年3月15日倫理審査済み 想定では800名（回答50%と仮定）

2) 1) 同意、データ提供した研究協力者にアンケート後6ヶ月時点で再アンケート



※②で既に受診した方については
要した医療費についても聞く
受診しなかった方については受診
しなかった理由を聞く

サービス募集・同意・アンケート調査(詳細)

ルナルナ

協力者募集のお知らせ
>>詳細<<

募集要項 & 手順LP ※新規作成(継続して利用)

■募集要項
東大研究参加者募集しています。
内容はアンケートへ回答するのみ(一部の方には、サイト閲覧等が発生する場合があります)

参加希望の方は研究計画書・同意書必ずお読みいただいた上で下記ボタンからご参加ください。

■参加前に必ずお読みください
>>>研究計画書・同意書<<<

研究計画書・同意書を読み
同意をして参加する

■研究協力をやめたい/同意を撤回したい
コンタクトセンターへご連絡ください
連絡先: コンタクト@mti.co.jp

アンケート調査

アンケート①

アンケート
回答データ
①

アンケート
回答者ID

アンケート②

アンケート
回答データ
②

ユーザーの流れ



メールにてユーザーから申告
↓
エムティーアイから東大へ報告

背景因子

年齢、年収など

月経困難症スコア (Harada T et al., Fertil Steril 2008)

(0～6点: 0 : 正常、1 : 軽症、2 : 中等症、3～4 : 重症、5～6 : 最重症 に層別化し、3以上で受診勧奨)

Modified menstrual distress questionnaire (mMDQ)

54点以上を異常とみなし、215点以上を「非常に重い」、148-214点を「重い」、103-147点を「やや重め」、54-102点以下を「中程度以下」と5段階に設定し、中等度以下で受診勧奨

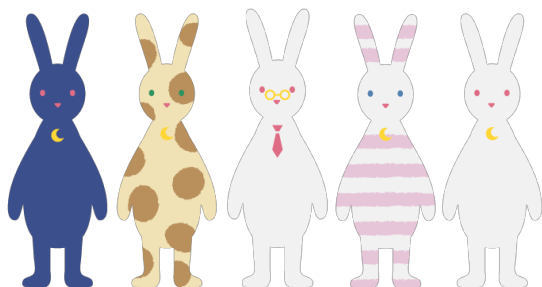
QOLおよび経済的損失の算定

生産性損失 (WPAI-GH質問票)

QOL (SF36 version 2 質問票)



アンケート画面イメージ



2021/3/12
株式会社エムティーアイ
ルナルナ事業部

アンケート画面イメージ(1)

LunaLuna

女性特有の健康課題に関するアンケート

20%

1. あなたの年齢を教えてください

次へ

🔒

完了

27歳
28歳
29歳
30歳
31歳
32歳
33歳

LunaLuna

月経困難症スコア

40%

あなたの月経中の症状について教えてください。

2. 疼痛（痛み）の程度を教えてください。

☐ 痛みなし

☐ 仕事（学業・家事）に若干の支障あり

☐ 横になって休憩したくなるほど仕事（学業・家事）への支障をきたす

☐ 1日以上寝込み、仕事（学業・家事）ができない

3. 鎮痛剤の使用状況について教えてください。

☐ なし

☐ 調査期間中の最も程度の重い疼痛の発現期間中に鎮痛剤を1日使用した

☐ 調査期間中の最も程度の重い疼痛の発現期間中に鎮痛剤を2日使用した

☐ 調査期間中の最も程度の重い疼痛の発現期間中に鎮痛剤を3日以上使用した

前へ

次へ

アンケート画面イメージ(2)

LunaLuna

月経随伴症状

60%

あなたの月経前、月経中、月経後の症状と、その程度について教えてください。

4. 月経前に次のような症状はありますか。またある場合はどの程度ですか。

体重が増えてくる

☐ なし

☐ よわい

☐ 中くらい

☐ 強い

眠れない

☐ なし

☐ よわい

☐ 中くらい

自信がなくなる、自分を責める

☐ なし

☐ よわい

☐ 中くらい

☐ 強い

会社（学校）をやすむ

☐ なし

☐ よわい

☐ 中くらい

☐ 強い

よく涙が出る

☐ なし

☐ よわい

☐ 中くらい

☐ 強い

前へ

次へ

アンケート画面イメージ(3)

LunaLuna

SF36v2

80%

5. あなたの現在の健康状態を教えてください。

☐ 最高によい

☐ とてもよい

☐ 良い

☐ あまり良くない

☐ 良くない

6. 1年前と比べて現在の健康状態はいかがですか。

☐ 1年前よりはるかに良い

☐ 1年前よりはやや良い

☐ 1年前とほぼ同じ

☐ 1年前ほど良くない

☐ 1年前よりはるかに悪い

アンケート画面イメージ(3)

LunaLuna

100%

7. 以下の質問は日常よく行われている活動です。
あなたは健康上の理由でこうした活動することが
難しいと感じますか。
難しいとすればどれくらいですか。一番当てはまる
ものを選択してください。

激しい活動（例：一生懸命走る、重いものを持ち上
げる、激しいスポーツをするなど）

☐ とても難しい

☐ 少し難しい

☐ 全然難しくない

適度の活動（例：家や庭の掃除をする、1～2時間散歩
するなど）

☐ とても難しい

☐ 少し難しい

☐ 全然難しくない

少し重いものを持ち上げたり、運んだりする（例：買い
物袋など）

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

階段を数階上まで登る

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

階段を1階上まで登る

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

身体を前に曲げる、ひざまずく、かがむ

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

1キロメートル以上歩く

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

数百メートルくらい歩く

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

百メートルくらい歩く

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

自分でお風呂に入ったり、着替えをする

- ☐ とても難しい
- ☐ 少し難しい
- ☐ 全然難しくない

前へ

完了

健康局4事業における医療経済評価手法の共通方針

健康局4事業における医療経済評価手法については、短期間での実証事業となるため、医療費削減効果が見えにくいという想定で、「費用結果分析」手法を用いることを想定しています。ただし、結果指標については各実証事業者の定めるKPIに加えて、可能な範囲でレセプトデータを入手し、変化の捕捉を検討しており、医療費への影響の将来推計に関しては、「一部実施」または「別研究として実施」することとし、範囲については各事業者と検討する予定です。

医療経済評価手法に係る方針（※全事業を横串で評価できるようにするため、**4実証事業で共通の手法を使用**）

- ✓ 複数のアウトカム指標を設定でき、共通の単位での測定が困難な介入に対して推奨されている「**費用結果分析***」の手法を用いて評価
- ✓ 短期間での実証事業のため、**医療費削減効果が見えにくい**という想定で実施（受診勧奨等により短期的に医療費が増加する可能性もあると想定）
- ✓ 医療費への影響に関する将来推計は、「**一部実施**」又は「**別研究として実施**」することとし、一部実施の範囲について各実証事業者と協議して決定

(*) 費用結果分析 (Cost Consequence Analysis):
各介入個別に費用の構成要素やアウトカムを列挙する方法であり、費用効果分析等の基礎としてデータを用いることが可能

費用結果分析における、4事業共通の留意点

分析方法	効果の考え方	アウトカム指標	・ 介入の目的・方法等に応じて、適切な指標を各実証事業で設定 ・ 健康上のアウトカム以外にも、患者・スタッフの満足度等のウェルビーイングの尺度を含めることも検討
		データソース	・ 各実証事業毎のデータベース(特定健診データ等)に加えて、レセプトデータ(受診回数等)を収集できるスキームを設計
		対象データ	・ 各実証事業のテーマに関連のある検査値データに限定する等、事業目的に即した対象データを絞り込み
		QOL値の測定	・ 国内データに基づき開発されたスコアリングアルゴリズムの存在するインデックス型尺度を含むことを推奨
	費用の考え方	費用の定義	・ 介入事業の実施に要した費用は、費目（人件費、物品費、医療費等）で区別し、単価と消費量をそれぞれ算出 ※ 本事業における新たな介入手法の研究開発費については、別途レポート等にてご報告いただく ・ 介入(あるいは比較対照)によって生じる関連医療費や生産性損失等についても可能な範囲で算出
		データソース	・ 各実証事業ごとにかかった費用を積算するほか、レセプトデータ(医療費等)を収集できるスキームを設計 ・ 必要に応じて、自治体等から事業実施にかかる費用についてのアンケートやヒアリング調査等を実施
評価方法	費用結果分析の分析イメージ	比較対照	・ 現行の介入方法として最も置き換わりうると想定されるもの(特別な介入を実施していない場合は無介入)を比較対照に設定

比較対照	Cost									Outcome			
	人件費		物品費		医療費		生産性損失		…	主要KPI	サブ指標①	サブ指標②	…
	単価	時間	単価	消費量	単価	消費量	単価	時間					
(A) 新しい介入手法	¥ 000	0: 00	¥ 000	0,000	¥ 000	0,000	¥ 000	0: 00	…	00.000	00.000	00.000	…
(B) 既存手法	¥ 000	0: 00	¥ 000	0,000	¥ 000	0,000	¥ 000	0: 00	…	00.000	00.000	00.000	…